

東金市下水道事業審議会議事録

日 時 令和7年7月1日（火）
午後1時30分から午後2時40分まで
場 所 第1委員会室
出 席 者

【委 員】桑田 豪委員（東金市議会建設経済常任委員）
鳥海 翔平委員（東金市議会建設経済常任委員）
保科 勇委員（東金市議会建設経済常任委員）
森田 弘昭委員（日本大学生産工学部特任教授）
吉田 恵美委員（吉田恵美公認会計士事務所長 公認会計士）
山岸 和人委員（公益社団法人日本下水道協会 経営研修部経営課長）
織田 正行委員（公募委員）
高宮 文夫委員（公募委員）
大竹 由美委員（公募委員）
以上9名

【事 務 局】鹿間市長、豊田都市建設部長
（下水対策課）鈴木課長・吉井副課長・橋詰維持係長・伊藤管理係長
大竹主任主事
（業務受注者）株式会社日水コン 3名

諮 問 別紙諮問のとおり

会議概要

- ・事務局の進行により開会。
- ・出席者9名につき会議成立を報告。
- ・委員へ委嘱状交付
- ・市長挨拶
- ・委員、事務局、業務受注者自己紹介
- ・事務局の推薦により森田委員を会長に、保科委員を副会長に選任する。
- ・市長より、別紙諮問の読み上げ。

以下諮問について説明及び委員からの質疑応答。

【会 長】 東金市下水道事業経営戦略改定について事務局より説明をお願いします。

【鈴木課長】 それでは、経営戦略や本審議会について、配布資料「東金市下水道事業経営戦略（改定）について」に基づき、説明します。

1の「東金市下水道事業経営戦略と改定の必要性について」ですが、下水道事業については、人口減少に伴う使用料収入の減少、人件費や燃

料費などの上昇に伴う維持管理費の増加、施設老朽化による改築更新費用の増加など、厳しい経営環境にあります。そういった中、当市では下水道事業を持続的かつ安定的に経営するために、中長期的な経営の基本計画である経営戦略を、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間として、令和2年度に策定しました。

そして、計画開始から本年度で5年目となりますが、昨今の賃上げや燃料費、電気代を始めとする急激な価格の高騰、また、維持管理費の削減を目的とした農業集落排水と公共下水道の接続工事の実施など、計画当初の想定と比較し、現状が大きく変化してきています。

また、そういった社会情勢の変化等に対応するために、総務省からも3年～5年ごとの見直しを要請されており、5年目となる本年度中の経営戦略の改定が必要となります。そして、経営戦略を改定することで、より実態に即した計画とするとともに、安定的な事業経営のための財政マネジメントの向上を図ろうとしています。

次に、2の「東金市下水道事業審議会」についてです。本審議会の設置目的ですが、下水道事業は市民の生活環境に直結する重要な公共インフラとなり、その運営や取り組みにおいては、利用者や学識経験者の方々のご意見をいただきながら進めることが重要であると考えております。そのため、今回の「経営戦略の改定」といった重要なタイミングにおいて、今後の事業運営を検討していくにあたり、委員の皆様方のご意見を頂戴するために設置しました。

今年度においては下水道事業経営戦略の見直しを行ってまいります。委員の皆様方には、今後の事業展開や収支計画などについて、次回の審議会において素案の提示を予定していますので、維持管理費の削減や収入確保などの対策、収支見込みに対する使用料改定の是非など、様々なご意見を頂きたいと思っております。

【伊藤係長】 3の「事業運営の現状について」ご説明します。

まず、当市の下水道の普及状況ですが、資料の中央に見取り図を掲載しています。当市で管理している下水道施設は、公共下水道と農業集落排水の2つがあります。それぞれ、公共下水道のエリアが赤色、農業集落排水のエリアが緑色で着色しています。その他は浄化槽のエリアです。市域全体のうち、下水道施設が占める面積割合は約13.3%、人口割合は約49.2%となります。

次に、当市における人口推計ですが、経営戦略の計画期間である令和3年度から令和12年度の10年間は、公共下水道区域内では1,054人・4.4%の減少、農業集落排水区域内では520人・12.7%の減少を見込んでいます。

人口減少に伴い、計画開始から昨年度までの4年間においても、下水道施設への有収水量及び使用料収入が、徐々に減少しており、中段右側のグラフに表しています。令和3年度と令和6年度を比較すると、有収水量は289万9,995 m³から285万1,323 m³となり、4万8,672 m³、約1.7%の減少、使用料収入は4億2,958万8,841円から4億2,676万7,411円となり、282万1,430円、約0.7%の減少となっています。

下段、左側のグラフには、使用料収入の他に、污水处理費と経費回収率の推移を示しています。污水处理費とは、営業活動に係る全ての経費から、公費により負担することとしている経費を除いたもので、所謂、使用料収入によって賄われるべき経費です。経費回収率については、実際に污水处理費を使用料収入でどの程度賄えているかを示す割合です。

年度により污水处理費にばらつきがありますが、経費回収率については、100%を下回っており、直近の令和6年度は、計画値が95.3%のところ、決算値は95.5%でした。使用料収入の不足分につきましては、一般会計からの繰り入れにより補っており、令和6年度に資金不足を補うために一般会計より繰り入れた基準外繰入金は、約3,600万円でした。

下段右側のグラフは、企業債残高と一般会計繰入金の推移です。ストックマネジメント計画に基づき、施設の改築更新に係る建設投資額を平準化するなど、減債により、企業債残高は減少しています。

【大 竹】 東金市下水道事業経営戦略改定業務の受注者である、株式会社日水コンより経営戦略改定にかかる今後のスケジュールについて説明します。

【日水コン】 経営戦略の改定では、令和3年3月に策定された現行の経営戦略を基に公共下水道事業と農業集落排水事業を対象に安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画として令和8年度～令和17年度の10年間を検討対象期間として改定版を取りまとめます。

現在、10月に予定しています第2回審議会で東金市下水道事業経営戦略(改定)の素案を審議して頂けるよう、策定スケジュール(案)に合わせて作業を進めています。

11月に予定しています第3回審議会では、第2回審議会での意見を反映した改定版を確認して頂き、第4回審議会で最終確認して頂けるよう、作業を進めていきます。

【大 竹】 事務局からの説明は以上です。

【森田会長】 ただいまの説明に対してご意見等ございましたら、発言をお願いします。

【高宮委員】 委員委嘱状によると、任期は令和9年6月30日だが、令和8年度の

審議会の内容を教えてください。それを踏まえて今年度の議論をしたいと考えています。

また接続人口や使用料の説明がありましたが、このデータの数字は公共下水道、農業集落排水を合算したものでしょうか。もし合算したものであれば後はそれぞれ分けたデータを提示してください。

次に公共下水道および農業集落排水への接続率をそれぞれ教えてください。

【鈴木課長】 来年度の審議会について、まずは今年度中に経営戦略改定を行い、来年度以降は各年度の決算値等を基に進捗報告を行います。その中で、早急な使用料の改定が必要ということであれば、審議していただきたいと思います。進捗報告のみの審議会であれば年に1回の開催を想定しています。

また今回ご提示した資料の数字については、公共下水道、農業集落排水を合算したものとなります。経営戦略改定の際には、それぞれの事業について作成します。次回の審議会ではその素案を提示する予定です。

接続率について、公共下水道は水洗化率 92.7%、農業集落排水は4地区合計で 86.2%です。

【鳥海委員】 使用料と汚水処理の経費回収率の説明について、不足分の 3,600 万円を繰入れしているとあったが、令和5年度の決算額は、公共下水道事業については補助金で約5億2千万円、負担金 3,600 万円、農業集落排水で約2億円補助金があったと思うが、これらについては施設整備費等に充てられているということでしょうか。

【鈴木課長】 一般会計からの繰入金総額と、不足額約3千万円という説明についてのご質問をいただきました。

下水道事業は、公共水域の水質汚染防止、住環境の保護といった意味合いも持つ事業であり、国からも繰入基準が示され、一般会計からの繰入金は認められています。その中で、基準内繰入金というものがあり、不足している分については基準外繰入金としています。令和6年度決算では全体で約5億円の繰入があり、そのうち約3千万円が基準外繰入金となります。

【山岸委員】 配布された「東金市下水道事業経営戦略」の資料についての説明は本日はありますか。

【鈴木課長】 そちらの資料は参考資料として配布しました。次回の審議会では経営戦略改定の素案を提示する際には、現状との違いが分かるよう説明します。

【山岸委員】 公共下水道事業における経営戦略について、お聞きいたします。1点目に、4ページの行政区域内人口の推計という数値の設定の見積具合を教えてください。

【鈴木課長】 人口推計は、東金市の総合計画の推計値を採用しています。この推計値は、東金市が独自に算出しており、人口ビジョンなどと比較すると若干高めの設定となります。

【山岸委員】 経営戦略改定の際の人口推計については、高めの想定となると、余裕を持ち過ぎた経営戦略となる可能性があるため、次回の審議会で説明をお願いします。

2点目に、8ページに浄化センターの規模の適正化とありますが、これはこういった内容となるのか教えてください。

【鈴木課長】 計画として策定している浄化センターの改修をより正しく適正化していくといった内容となりますが、現状変わっていません。

【山岸委員】 次に、10ページに農業集落排水を接続する計画について、令和16年度までに実施していくと記載がありますが、計画の進捗状況を説明してください。

【鈴木課長】 農業集落排水を公共下水道へ接続する計画について、記載のある令和16年度よりも前倒しで進めており、計画地区の3地区の内2地区は工事中で、来年度の供用開始を目指しています。残りの1地区については工事の詳細設計をしていく段階となります。

【織田委員】 管渠の長寿命化計画について、一般に公開はしていますか。

【鈴木課長】 污水管については、ストックマネジメント計画というものを策定しており、市のホームページに公開しています。

【吉田委員】 東金市の人口が約5万人に対し、処理区域内人口約2万人ということですが、この処理区域は今後広げていくのか、現状の施設を維持管理していく方針なのかを教えてください。

【鈴木課長】 処理区域の拡充については、計画区域すべてが整備されたわけではなく、未整備区域は区画整理等の都市計画と併せて進めていきたいと考えています。しかし、その都市計画が進まないため、現状では処理区域を広げる予定はなく、現状の施設の老朽化対策等をメインに進めていく方針です。

【保科副会長】 A3の資料（東金市下水道事業経営戦略の改定について）の地図で示されている、赤い部分が計画が進んでいない区域ですか。

【鈴木課長】 おっしゃる通りです。資料の濃い赤で塗られている部分が、全体計画にはありますが、事業が進んでいない区域です。

【保科副会長】 同資料の使用料と汚水処理費、経費回収率の推移のグラフについて、回収率が令和4年度落ち込み、その後は回復しているが、その要因を教えてください。

【鈴木課長】 令和4年度に電気代が急激に上がった影響が大きく出ており、回収率が下がっています。その後回復したことについては、一時期より電気代が落ち着いたことや、企業債の返済が進んだため支払利息に関する費用が減少したことなどにより、経費回収率は向上しています。

【保科副会長】 同資料について、企業債残高と一般会計繰入金の推移について、減債の取り組みについて教えてください。

【鈴木課長】 建築当時の企業債の返済が終わり始めており、このような状況となっております。現在も施設の改修等で企業債には頼らなくてはなりませんが、施設改修に関する費用の平準化を図ることなどにより、返済額以上の借入を行わないことで減債をしています。

【吉田委員】 使用料の未収について教えてください。

【鈴木課長】 東金市の下水道使用料は上水道使用料と併せて徴収しており、上水の場合は料金を払わなければ水が止められるため、徴収率は99%以上を保っております。その中で、アパートに住んでいる方が、住所変更をせずに転出するといった例が東金市の場合多く、外国の方が手続きをせずに出国することもあり、そういった場合は回収できないという実態があります。

【桑田委員】 農業集落排水事業の経営戦略の2ページ目の、広域化・共同化・最適化実施状況について、上谷地区および嶺南正気西部地区接続となっておりますが、その際に、上谷クリーンセンター、嶺南正気西部クリーンセンターの取扱いについて教えてください。

【鈴木課長】 上谷地区および嶺南正気西部地区については、現在工事中であり、供用開始は来年度を目標に取り組んでいます。クリーンセンターについては、建物は耐用年数がまだ残っているため、利用していく予定です。建物の中の機械設備は撤去し、地元の農業者の方等に利用していただくよう現在調整を進めています。

【桑田委員】 その土地は東金市の土地ですか。

【鈴木課長】 東金市の土地です。

【桑田委員】 福岡地区については、土地の勾配などの関係で接続できないということですか。

【鈴木課長】 松之郷地区と福岡地区について、松之郷地区は、計画を進めています。福岡地区については、農業集落排水の供用を開始したのが比較的新しいため、施設の耐用年数も残っており、現状では今のまま使っていく予定です。今後、耐用年数が少なくなった際に、公共下水道へ接続するのか、施設改修を行う方が得なのか、あるいは他の方法があるのかを検討しながら事業の方針を決めていかなければいけない状況となります。

【高宮委員】 福岡地区の農業集落排水について、東金市の地形は1000分の1勾配となっており、ほとんど勾配が無いため、接続には、ポンプを使用する必要があると思いますが、長期的に見たら将来的には一か所のプラントへ集約すべきと考えます。そのあたりの方向性だけでも経営戦略を改定する際には記載した方がよいと考えます。

もう1点ですが、公共下水道、農業集落排水の接続率に関して、接続率が上がらなければプラントの処理能力も効率的に発揮されないはずですし、未接続の部分に関してはどのようにしていくのかというところも経営戦略には記載した方がよいと思います。

【鈴木課長】 福岡地区について、先ほどの説明では、公共下水道へ接続するか、現状のままとするかとの二択であるとしましたが、実際のところ、大網白里市の公共下水道へ接続することが可能なのか、あるいは九十九里町の農業集落排水へ接続することが可能なのかも含めて検討が必要だと考えます。また経営戦略に記載するためには、ある程度の費用対効果が分からないと難しいと考えています。

接続率向上について、公共下水道及び農業集落排水への接続はお願いしていますが、それぞれのご家庭の事情もあり思い通りには進んでいないというのが現状です。先ほどご意見いただきましたとおり、そういった状況をどのように解決していくのかは経営戦略改定の際には盛り込んでいきたいと考えています。

【吉田委員】 農業集落排水の接続について、負担金等がありますか。詳細な説明をお願いします。

【鈴木課長】 農業集落排水につきましては、加入時に受益者分担金を1件あたり50万円いただいています。

【森田会長】 本日は市長からの諮問および概要説明がありましたので、次回は詳しいデータを提示していただきたいと思います。

農業集落排水4地区について、資料の地図に勾配の記載が無いため、どこをどのように接続するのかが分からなかったもので、次回では、農業集落排水の位置、利用者数、勾配などの資料の提示をお願いします。公共下水道に関しては、施設のダウンサイジングについても議論したいので、資料の提示をお願いします。

【森田会長】 他に質問等ないようでしたら、本日の審議は以上としまして、後の進行は事務局をお願いいたします。

【大 竹】 今後の審議会の開催予定については、第2回目の審議会につきましては、10月15日、第3回目の審議会につきましては、11月19日、時間については両日とも13時30分となります。ご案内の通知は後日郵送します。

次に、事前に開催通知にてご案内したとおり、本日審議会閉会後に、希望される方には東金市浄化センターをご案内します。時間としては1時間ほどを想定しています。希望される方は、閉会後に事務局までお声がけください。

これをもちまして第1回東金市下水道事業審議会を閉会いたします。

以上をもって、午後2時40分閉会となる。